

第181回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」を開催

8月5日(月)、今日は「元気に百歳」クラブの座談会やらイベントが、三つ続けて開催されました。この三つのイベントに参加。終日活躍され、「元気に百歳」クラブを堪能された方には、少しハードな一日になりました。午前中、出版編集委員の皆さんは、「クラブだより」編集部のインタビューを受ける座談会がありました。今秋発刊の20号で最終刊となるクラブ誌『元気に百歳』のこれまでに、語り合いました。座談会には特別に中西先生も参加して下さいました。午後一番は、俳句サロン「道草」の8月句会があり、「道草」メンバーはこれに出席。終了後は代々木に場所を移して、「元気に百歳」クラブのイベントである「夕涼み会」に、参加するというプログラムでした。

このレポートは、その中の俳句サロン「道草」8月句会のご報告です。このところの朝から30度を超える連日の酷暑の中、俳句に取り組んだのは、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、太田一光さん、金田月草さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さんと芦尾白然の11名。なお、欠席投句は、板倉歌多音さん、上田枯葉さん、住田幸佳さん、中澤松女さん、船戸清助さんの5名が参加して下さいました。

住田先生は、冒頭に昨日の女子ゴルフ、全英女子オープンゴルフに、初出場で見事に優勝した渋野日向子さんの話をされました。渋野さんが、タイトな状態にあっても、笑顔でギャラリーに対応している姿勢の根底にあるものも格別だと。往年の名選手、樋口久子さんも、岡本綾子さんも「この選手は、出来が違う」と言われているようです。それにしてもすごい20歳が現れたものです。今後が楽しみです。さて、本番です。住田先生が「今日はこれで詠んで下さい」と、提示された席題と、皆さんが選句された天賞句と最多得票賞(☆印)句は、次の通りです。

席題1. 「残暑」又は「秋暑し」

◎『木の橋を踏みて軋める秋暑し』	晶如	天1☆6
◎『来年はいかばかりかこの残暑』	一光	天1
◎『「突然」と書き出す手紙残暑かな』	白然	天1

席題2. 「南瓜(かぼちゃ)」又は「カボチャ」

◎『刃に硬し歯には柔らかか南瓜かな』	和感	天2☆6
◎『鹿ヶ谷菊座というも南瓜かな』	荻女	天1
◎『味も良し隣の庭の南瓜かな』	傘吉	天1
◎『全身の重さを預け南瓜切る』	晶如	☆6

席題3. 当季雑詠の自由題句

◎『雲去りて遅き夏の陽草焦がす』	清助 (投句)	天2
◎『ほろ酔ひの浮棧橋の夜涼かな』	荻女	天1
◎『ベランダのゴーヤー一号収穫す』	歌多音 (投句)	天1
◎『夏祭り日照雨もありて盛りあがる』	幸佳 (投句)	天1
◎『風に乗る児等の歓声水遊び』	蒼樹	☆5

(道人の一句)

煮て焼ひて揚げても美味し南瓜かな 住田道人

席題1. では、晶如さんの句「木の橋を踏みて軋める秋暑し」が、天賞一つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。木の橋の軋む音と秋の暑さを想像させられる読者は、自分が橋を渡り、その軋む音を聞きながら、秋の暑さを体験しているかのような気持ちにさせられたと思います。次に一光さんの句「来年はいかばかりかこの残暑」が、天賞一つを獲

得しましたが、暑さを大の苦手とされる一光さん、この句は「昨今の暑さから、ふと来年のことを思うと・・・」を、詠まれました。選者の多くが「そうだ、そうだ」と思われたことでしょう。白然の句『「突然」と書き出す手紙残暑かな』も、天賞一つをいただきました。秋初めに「突然」と書き出された手紙を読み続けるのには、勇気のいることです。少し不気味な想像が頭を過られたでしょうか。

席題2. では、和感さんの句「刃に硬し歯には柔らかか南瓜かな」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句は生の南瓜の硬さと、煮た後の南瓜の柔らかさを「刃」と「歯」という同じ音の字で比べるという閃きが、選者を微笑ませ、共感をえました。まさに和感さんの面目躍如たる句でありました。次は荻女さんの句「鹿ヶ谷菊座というも南瓜かな」が天賞一つを獲得しました。上五と中七の「鹿ヶ谷菊座」という南瓜の表現が珍しく、面白かったのでしょうか。京都産と聞いています。もう一句、傘吉さんの句「味も良し隣の庭の南瓜かな」が、天賞一つを獲得しました。この句からは、一つの物語が想像できます。頂いた隣の南瓜は美味しかったが、自分で作った南瓜は・・・というところでしょうか。最多得票賞（☆印）句は、晶如さんの句「全身の重さを預け南瓜切る」でした。やはり生の南瓜の硬さが背景になっている句で、全身の重みを南瓜に預ける晶如さんを想うとき、この句はさらに楽しくなる句です。

席題3. の自由題句では、今月も皆さんの選句が分散したようで、しかも、投句の中から三句が天賞に選句されるという、これまでにない結果が出ました。先ずは、清助さんの句「雲去りて遅き夏の陽草焦がす」が、天賞二つを獲得しました。選者は下五の「草焦がす」を、夏日の長い照りつけによって、草が焦がされるという表現を、好感を以て受け止めたのでしょうか。次に荻女さんの句「ほろ酔ひの浮き棧橋の夜涼かな」が、天賞一つを獲得しました。夜の浮き棧橋上でのほろ酔い、涼しさが倍加されたことでしょうか。次の歌多音さんの句「ベランダのゴーヤー一号収穫す」も、天賞一つを獲得しました。ベランダで育てる野菜は、暮らしの中の楽しみの一つ、その第一号の収穫は特別であったと思われます。もう一つ、幸佳さんの投句「夏祭り日照雨もありて盛りあがる」が、天賞一つを獲得しました。日照雨とは「そばえ」と言われ、いわゆる「狐の嫁入り」と言われている現象ですが、秋の収穫を祈願する夏祭りでは、昔から「吉兆」として喜ばれる現象です。これをピシヤリと捉えた句で、選者の共感をえました。席題3. では、蒼樹さんの句「風に乗る児等の歓声水遊び」が、最多得票賞（☆印）を獲得しました。季語の「水遊び」を下五に置き、子どもたちの歓声を風に乗せて運ばせた、暑い夏の陽の水辺の情景です。活気ある夏のバイタリティに、最多得票が集まりました。

今年の11月には、行田市での「吟行」を計画しています。9月中旬には、具体的な下準備に入る予定です。住田先生、君塚明峰様、よろしくお願ひ申し上げます。この吟行は、もう一つの「道草」メンバーとの合同吟行になります。皆さんが揃うのは、大きな楽しみです。

本日の二次会は、前述しましたように、「元気に百歳」クラブの本部企画である「夕涼み会」に参加することでした。代々木が、少し行き辛い処でしたでしょうか、結果的には出席した「道草」メンバーが、全体の三分の一を占める「夕涼み会」になりました。ですが、今回は「道草」メンバーだけで話し合うというのではなく、皆さんの中に入って、楽しく愉快的時間を過ごさせていただき、有難うございました。次回は9月6日です。元気に笑顔でお会いしましょう。

白然記